

平成二十五年度

修士論文・卒業論文題目

大学院文学研究科

〈歴史学専攻〉

鈴木 諒法 魏晋南北朝期の『蛮』―北魏期
を中心に考察―

〈文化財学専攻〉

巖ジェノパ 韓国の伝統的村落の特徴

川内 彩歌 負の遺産とは何か―戦跡と記録
画を中心として―

崎谷 雄紀 吉備地区における出現期古墳成
立過程について―弥生墳丘墓から
前方後円墳成立過程について―

林 裕子 大分県立歴史博物館所蔵『阿弥
陀来迎図』現状模写及び想定復
元模写について

史学・文化財学科

〈日本史・アーカイブズコース〉

秋吉 美幸 江戸時代初期における幕府の外
交政策

東 千晶 徳川家康について

阿南孝太郎 本能寺の変について

新垣 源太 鎖国とキリスト教

板敷 祐佳 承久本北野天神縁起絵巻からみ
る菅原道真の生涯と天神信仰の
発生に関する研究

上杉 菜摘 大分県公文書の文書群の構造分
析について

江口 祐樹 蒙古襲来による鎌倉幕府の変化
と悪党の発生

大場 亜弥 女の花園 大奥

門田 大平 日朝における漂流民への対応と別
幅―『両国往復初膳』を用いて―

河邊満里奈 文化的側面からみる後白河院政

木原 真子 木簡から見る長屋王家の家政機
関とその経済基盤

久徳 剛弘 後北条氏で見る戦国期の軍事編
成

楠下 峻司 豊臣政権下における立花宗茂の
動向

河野 由真 戦国武将と茶の湯の一考察

児玉 一斗 自由民権運動における言論の意
義―新聞・演説会を中心に

後藤 奈々 豊臣秀吉の思惑―肥後国衆一揆
から考察―

後藤 睦 修理工事からみる姫路城の歴史

首藤 勇太 廣瀬武夫からみる軍神の形成と

その過程

新久保恒和 秀吉家臣団について

兵頭 祥平 日中戦争木の軍事面での動向と
国内政治

松下 宣明 近世の文学作品について

森脇 貴志 歴代徳川將軍の政治について

山園 正輝 明治―大正にかけての女性の服
装の変遷

吉本 千里 関ヶ原の戦いにおける人物模様

板野真之介 キューバ革命について―カスト
ロ・ゲバラ・バティスター―

馬田 文 ヨーゼフ二世の改革

小川宗一郎 古典期マヤ王の権威・権力―ア
グアテカ遺跡から見る宮廷の暮
らし―

川邊 一仁 ムスリム同胞団の歴史―設立と
発展と弾圧の時代―

北川 愛美 ナラム・シンから見るメソポタ
ミアの神格化

幸山 尚人 トラヤヌス帝―戦争と平和につ
いて―

後藤翔太郎 オランダのインドネシア支配に
ついて

崎野祐太郎 ナチス・ドイツによるヨーロッパへの侵攻―ゼーレヴェ作戦の挫折―

岩崎 俊裕 高田焼の未来を探る―上野窯を中心に―

3. 11の教訓を通じて―
廣川 佳苗 南都復興と興福寺―仏師康中心に―

佐々木公平 古代エジプトの医療と対外関係の関連性

梅田 駿 湛慶その人―仏師湛慶の個性と作品―

福永竜之介 馬の祭り―藤崎宮秋季例大祭を中心において―

白石 将太 グーテンベルクと活版印刷術の開発

岡村 桃子 物語の大衆化―絵巻物から版本への変遷を通して―

本田 覚 人から見た蛇―文化としての生き物―

武田 菜々 古代ギリシアの同性愛について

小野 唯衣 「韓流」と「日流」―「近くて遠い」国からの脱却

藤原なな子 変化してゆく怪異―怪談本から都市伝説、そしてインターネッ

土谷亜由美 13世紀―15世紀におけるヴェネツィア共和国の商業

清田 若菜 現代の妖怪―マンガを中心とした若者の視点から―

政枝 智美 女性の旅―旅からみる日本文化の特性―

戸田 秀美 王莽政権について―その成立過程と政権の人的構造を中心として―

是末 泰宏 旅する画僧雪舟―その足跡と伝承の世界を読む―

丸山 初 「九州のとんち話」―主人公からみる地域性―

中島 瑠李 剣闘士競技とローマ社会

酒見 一貴 峯入りについて

吉田亜寿美 炭坑のくらし―筑豊を中心とした炭坑の人々―

藤田 佳奈 ヴィクトリア朝(1837年―1901年)のメイド

佐藤 由貴 マンガからアニメーションへ―手塚治虫の世界を探る―

安治川涼介 男扶穂塚古墳と九州における帆立貝形古墳の様相

本多 正宗 近代アメリカにおける農村と工業の関係

佐保 裕太 田染荘水田開発について―小崎地区を中心に―

石川 祥多 縄文の植物食―堅果類を中心に―

宮城 華子 インドネシアの開明的女性カルティニ

白川 巧 築上町における信仰―信仰からみる基層文化―

翁長圭乃子 首里城の城門について―文化財的視点からみた琉球独自の建築技法と各城門の役割について考察―

村田 俊幸 大航海時代とポルトガル―航海王子エンリケを通して―

園田 涼太 律令国家の辺境政策と隼人―入植・宗教政策を中心に―

別府竹細工の濫觴と発展―芸術と民芸のはざままで―

井上 優香 河童の町・田主丸―伝承にみる地域文化の特性―

田中 和輝 我が郷土三瀧―その開拓の歴史―

花城 勇太 日本の地震・津波対象の盲点―

〈環境歴史学・文化遺産学コース〉

〈考古学・保存科学コース〉

川上 友茉	奴国の拠点集落の構造について	千原 和己	代性―九州島内における終末期古墳について	幸 義人	九州における人物埴輪の導入と展開
川久保光佑	吉野ヶ里遺跡の終焉				
菊池眞央子	劣化和紙の復元―かぜひき紙のホクシング除去及び目詰―	利光 咲月	縄文時代前期の土鈴―縄文時代前期の土鈴の用途―		
北村 修昌	考古学資料からみた別府地域の歴史的変遷の研究	永井 佑樹	震災から文化財を守るために―備えるためになすべきこと―		
久保 千明	弥生時代―古墳前期における女性首長の研究―卑弥呼の首長としての性格―	檜崎 泰志	北部九州における鐸型銅製品の検討―特に文様と思想(考え方)について―		
久保山真里早	出土金属製品の保存修復	西 百合佳	グスクの構造と類型分類について		
倉崎 壮志	城郭寺院本願寺寺内町の研究―考古学の視点でみる城郭寺院―	濱野 将伍	和傘 中津和傘と現代意義		
佐々木圭祐	戦争遺跡・遺物の保存方法の比較・研究	本田 槇紀	耶馬溪羅漢寺における石造文化財の周辺環境と劣化		
島 圭史	銅銭の金属成分分析	松浦 由佳	中世博多と豊後府内の都市比較研究―都市空間内の経済領域を中心に―		
曹 承喜	文化財を取り巻く環境―文化財収蔵施設の環境調査―	松本 拓也	16世紀の西洋式城郭と日本の城の比較論		
杉本 直之	埋葬文化からみた大分県の洞穴遺跡	宮木 貴史	筑・豊・肥における石製表飾の再検討		
高村 綾	『鷹図屏風』(現存五扇のうち一扇)の保存修理	山下 智子	合成樹脂の性能検査		
竹田奈緒子	古墳時代の石製表飾からみる首長磐井の性格	山下 祐雨	北部九州における初期木製農耕具の出現と展開		
武田 典子	城久遺跡群の成立と展開	山本 真央	三次盆地における帆立貝形古墳		
田中 弥来	近代化と着物―意匠から見る時				